

## 寅彦の切手と虎の置物

佐藤 邦夫

『榦』第19号（平成十年十一月発行）に名古屋の山田功様が「肖像切手「寺田寅彦」を書かれています。その文章は、文化人切手に寅彦先生が採用された経緯を文献で調べ上げ、解説してくださいましたものですが、その肖像切手を「小さな額に入れ、机上に置いてみてはどうでしょう」と薦められていました。

筆者は平成十二年十二月の入会ですので、このことを後日、合本『榦』第2集を読んで知りました。そして、いつかは古切手を入れようと考えたのでした。しかし、古切手を扱っている店を知らず、そのままになっていたのですが、地元の清水で生まれ育った妻にある時、寅彦の切手が欲しいのだ、ということを決めたところ、次郎・長通りにお店があるよ、と教えてくれたのでした。八年前です。

「古切手販売カタログ」では「寺田寅彦」切手は一一五五円でしたが二割引の九二四円で買えました。（古い文化人切手は今でも簡単に買えることを初体験しました。）

次は切手に合った大きさの額ですが、六年前、百円ショップを何度か漁って適当なものを見つけました（写真参照）。

寅彦の切手の額と対にした虎の置物は、子供の玩具で動物のスタンプ印がありましたので、その虎の印の握り部分を取り外した物です（大きさが切手とつり合っています）。この一対の組合せは「いいなあ」と一人悦に入っています。

（二〇一一・一・二七）

